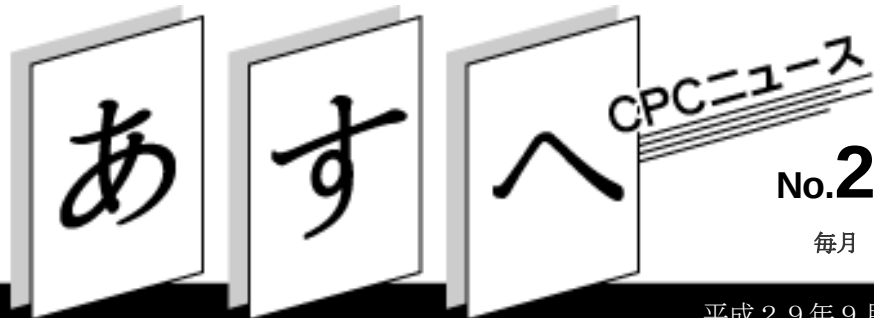




No.270

毎月 1 日発行

平成 29 年 9 月号

西日本生産性会議 2017 高松市で開催

中部・関西・四国・九州・中国の 5 生産性本部が主催する今年の「西日本生産性会議」は、8 月 3 日(木)・4 日(金)の 2 日間、高松市の JR ホテル クレメント高松で開催しました。第 45 回となる今回は四国生産性本部がホスト本部を務め、「生産性革新に挑む労使の知恵と実践力」を統一テーマに設定。西日本各地から約 650 名の皆様にご参加いただきました。

初めに四国生産性本部の佐伯勇人会長が「わが国では人口減少と少子高齢化が進む中、人手不足が深刻化して、労働力の確保が厳しくなっている。今後、企業が持続的に成長していくためには、1 人あたりの生産性を高めることに加え、付加価値を創出していくことが重要。その源泉となるのは働く人 1 人 1 人の創意工夫であり、2 日間の会議を通じて今後の具体的な方向性を探っていきたい」と挨拶し、基調講演、基調討議に移りました。

基調講演では、早稲田大学大学院 早稲田大学ビジネススクール 准教授の入山章栄氏が「日本企業のイノベーションへの課題」と題して、イノベーションを起こすための組織のあり方や仕組みづくりについて話されました。(概要は P 2)

基調討議では、当本部の清水希茂会長が座長を務め、パネリストとして帝人㈱取締役会長の八木成男氏、日本労働組合総連合会 事務局長の逢見直人氏、㈱日本総合研究所 理事・主席研究員の山田久氏の 3 氏が登壇。基調講演の講師を務めた入山章栄氏が進行役となり、統一テーマ「生産性革新に挑む労使の知恵と実践力」に沿って企業・労組・学識経験者の立場から議論が行われました。「企業は社会の公器であり、E S G 経営(環境、社会、企業統治)が不可欠」「働き方のルールを労使で決め、労使協議によってチェックすることが労組の大切な役割」「提供するサービスの質に見合った値付けをし、賃金上昇、そしてサービス向上へとつながる好循環を」などの意見が出されました。

2 日目の第 1 討議では、日本女子大学 人間社会学部 教授の大沢真知子氏が進行役となり、積水ハ



ウス㈱常務理事 経営企画部 ダイバーシティ推進室長の伊藤みどり氏、グーグル合同会社 サーチ&ブランドマーケティング 統括部長の平山景子氏、情報産業労働組合連合会 前政策局部長の宮原千枝氏の 3 氏がパネリストとして登壇。「生産性向上を実現する働き方改革」をテーマに、ダイバーシティ経営やワークライフバランスの実践策などについて意見交換が行われました。

第 2 討議では、「経営革新に挑むトップの思いと実践」をテーマに、㈱エアウィーヴ 代表取締役会長兼社長の高岡本州氏、島根電工㈱代表取締役社長の荒木恭司氏、㈱明屋書店 代表取締役社長の小島俊一氏の 3 氏がパネリストとして登壇。ウィトン・アクトン㈱代表取締役のルディー和子氏が進行役となり、変革に向けた思いや実践策、苦労などについて意見交換が行われました。

最後の特別講演では、海洋冒険家の白石康次郎氏が「夢、挑戦、そして人とのつながり」と題して講演。ヨットによる単独無寄港での世界一周や過酷なヨットレースに挑戦した経験を元に、「成功することよりも、挑むことが大切。挑まないと、新しいことは生まれない」と熱く語り、2 日間の会議を締めくくりました。

次回(第 46 回)は関西生産性本部がホスト本部となり、2018 年 7 月 26 日(木)・27 日(金)に神戸市で開催します。来年も多くの皆様のご参加をお待ちしております。

